らいてうの家の飛躍ねがって

4月28日に開館します

会長　米田佐代子

昨年十一月、早くも降り始めた雪に追われるように「家」を冬季休館しましたが、あっというまに春が来て四月二十八日からオープンすることになりました。昨年植えたブナも雪の中で育っています。

昨年は開館するのに夢中でしたが、今年はさらに新しい道を開きたいものです。その柱の一つは、「家」が信州上田市（真田町）という地域に根を下ろし、「この地にらいてうのこころざしを育てる」という方向をめざすことではないでしょうか。オープン以来、らいてうの家に共感してくださる地域の方に大勢めぐり合い、冬の拠点として真田町にアパートも借りました。ここから生まれる新しい可能性を求めたいと思います。詩人の岸田衿子さんや平和アピール七人委員会の小沼通二さんもお招きする予定です。

このような思いをこめて「オープン一周年記念行事」を上田市でおこないます。

辻井喬（堤清二）さんは、読売文学賞と現代詩花椿賞をダブル受賞された最新詩集『鷲がいて』、文庫化された『父の肖像』などで知られる著名な詩人・作家です。昨年一年間、信濃毎日新聞にエッセイ「漂流の時代に」を連載され、そのなかでらいてうにも触れて、厳しい時代のなかで自己を曲げずに生きた姿勢を今こそ学ぶべきと語ってくださいました。記録映画『戦争をしない国』の呼びかけ人として憲法を守ろうと熱く訴えておられます。どうぞ長野全県、首都圏をはじめ全国からおいでください。

この日に合わせた「らいてうツアー」も検討しています。ちょうど夏休みを迎え、「家」は、からまつの緑のなかを涼風がわたる美しい季節を迎えています。

今年こそらいてうの家で、憲法を守り「戦争だけが敵」「生きるとは行動すること」と訴えたらいてうのこころざしを生かしましょう。

辻井　喬さん

おったらいてうの会ニュース

発　行
平塚らいてうの会
〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ケ谷
4-11-9-303
TEL・FAX
03-3401-6383

らいてうの家開館一周年記念

漂流する時代に思う

――後戻りしない生き方のために――

講　　演　辻井　喬さん（作家・詩人）
日　　時　７月29日（日）１時30分より
会　　場　上田文化会館（上田駅よりタクシーで５分）
文化行事　上田市民のコーラス、朗読
　　米田佐代子館長の報告（らいてうの家の一年）
☆参加費　1000円

ＮＰＯ平塚らいてうの会　☎０３－３４０１－６３８３
上田平塚らいてうの会　☎０２６８－３５－２１９２
真田平塚らいてうの会　☎０２６８－７２－２４３７

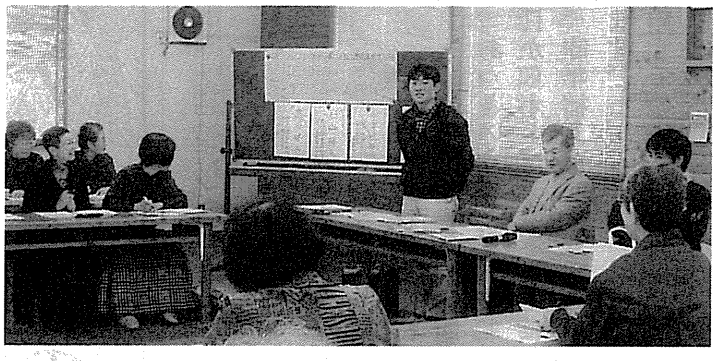
自然を守る地域づくり

スノーシューつけて冬の森を観察

森の講座の最終回（第五回）は、「住民主体の地域づくり―里川、里山から源流地域へ」のテーマで、二月十二日に行なわれました。お昼には真田庵で真田の会員の皆さんの心づくしのおいしい蕎麦すいとんとおはぎ、様々な漬物、みずみずしいリンゴなどの地元の味を堪能し、まず地元の食を通して、体にやさしい自然な味覚を取り戻す大切さを感じました。

参加者の紹介の後、真田の林業会館に会場を移して上田地域で自然保護の活動を展開されている三人のパネリストの方たちと、信州樵工房の熊崎一也さんをコーディネーターに、三十人を超える参加者で話し合いがもたれました

「里川源流のろしリレー」実行委員会事務局長の中澤信敏さんからは、上田の地域活性化を考える中で新上田市となって合併して広くなり、地域間の個性も多様になる中で、この多様な個性を尊重し、認め合い、結び合い、新しい街づくりを住民の手で作り上げるきっかけとして、「里川」千曲川を上田の個性として意識し、「のろし」を源流付近で上げる企画が紹介されました。



森の講座（2月12日）

NPO法人「学生地域くらし創り考房こみっと」の高須健さんからは、二〇〇六年から始まった「信州上田千曲川少年団」の実践と地域づくりについて、小学生を中心にした千曲川の川遊びや子どもたちの実際について話されました。

「唐臼山の老松保存会（ヤマンバの会）」事務局長の村山隆さんからは、一本の木にこだわることは、その一本だけではなく、地域の自然、集落などとかかわっていくこと、「ヤマンバの木」の命名は幼稚園児とのこと、「ヤマンバの木の歌」が出来、CDができたことで運動が広がったことなどが語られました。

雪山のスノーシュートレッキングへ

参加者からも、地域の川の変化のようすや、自然とのかかわりについての思いなどが話され、自然を守る地域活動を考える森の講座のまとめにふさわしい会となりました。四月二十九日に行なわれる「のろしリレー」には、らいてうの会からも参加しようという声が上がりました。

翌日二月十三日、あずまや高原ホテルの前に集まった十四人の参加者は、二人のインストラクターの指導の下、雪山のスノーシュートレッキングに出発しました。空は抜けるように青く、春のような暖かさ、スノーシューの装着に悪戦苦闘したものの、歩き出せば快適です。

早速、雪道の上に発見した「エビフライ！」実はかじられた松ぼっくりの芯でした。ウソがさえずっている林の中にはテンテンと足跡が。梅の花のようなかわいい足跡はタヌキのものと教えてもらいました。足跡で動物の種類、歩き方などが分かるのです。ウサギ、カモシカなどの足跡を追って林の中を自由に歩けるのが快感です。

途中、休憩で雪の上にごろんと寝ころんで見上げると、白樺の梢が細かく分かれて真っ白なレースのようです。雪の上に白樺の赤ちゃんを探したり、形探しのゲームなどしながら、あっという間の二時間でした。ホテルのすぐそばに、こんなに動物がいるとは！　雪が教えてくれた森の命に胸が躍りました。

（三留　弥生）

もっと楽しく癒しと元気を

今年は新しく発見された写真や資料も入れた「らいてうと信州」の特集パネルも展示、昨年に続いてブナの植樹や薬草園の山桜花見大会、あずまや山散策などの行事も企画中です。夏の夜の交流会も初の試み、お茶会や座禅会、冬には「雪見ツアー」も。

特に力を入れたいのは文化事業です。詩人の岸田衿子さんや、湯川秀樹さんの核兵器廃絶の遺志を継いで活躍される物理学者の小沼通二さんなどを「家」にお招きするほか、上田で「源氏物語」の語り部と評判の宮島満里子さん（会員）に「現代の女性と源氏」のお話を、また米田佐代子館長が新資料と解釈で挑む「らいてうと信州とあずまや高原」「らいてうの平和思想」などを予定しています。メインイベントの「辻井喬講演会」は信濃毎日新聞社の後援も実現の見通しとなり、上田市でも後援を検討中です。五百人の会場をいっぱいにしましょう。チケット（千円）と協賛のよびかけをはじめています。

5月12日・13日（土・日）　薬草園の花見大会
　第一回森のめぐみ講座
5月13日（日）　昨年と同様ブナの植樹
5月27日（日）　第一回らいてう講座
　恒例の「らいてう忌」にちなんで岸田衿子さんをお招きする予定
6月上旬　座禅会
6月17日（日）　第二回らいてう講座
　「元始…」の原風景―新展示「らいてうと信州」に寄せて（米田館長）
7月14日・15日（土・日）　第二回森のめぐみ講座（希望者は四阿山登山も）
7月29日（日）　辻井喬さん講演会

らいてうは俳句がすきだった

松本市で俳句「羅」（ｒａ）の会を主宰している飯島ユキさんは昨年「平塚らいてう生誕百二十年、没後三十五年、『らいてうの家』完成記念」と銘打って、らいてう忌（五月二十四日）の句、または平塚らいてうを詠った句を募集しました。

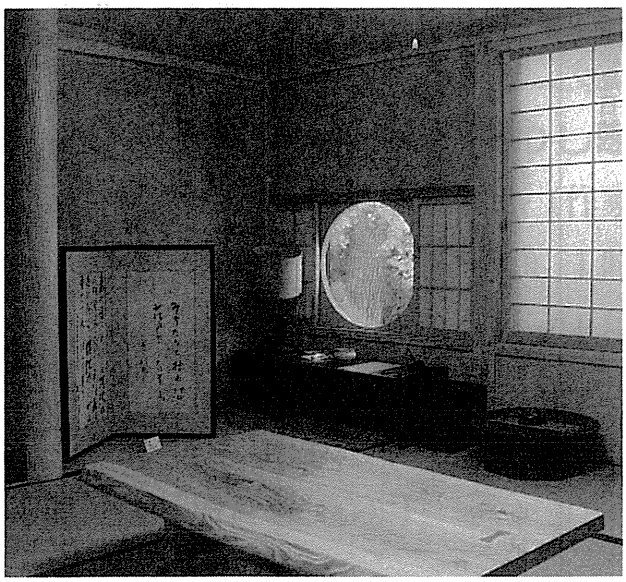
俳人の大石悦子さん、黒田杏子さん、正木ゆう子さんに選者を依頼して投句を募ったところ、全国から、また海外からも、二千五十三句が寄せられました。三月発行の俳誌『羅』（隔月刊）第四十号に、特選句、秀逸句が掲載されています。

特選は「さりさりと白布断ちをりらいてう忌」（松本市　百瀬治子）　「油あげ一枚買ひぬらいてう忌」（安曇野市　西澤吉昭）　「太陽に瞼を閉ぢてらいてう忌」（千曲市　渡辺重昭）の三句。真田らいてうの会の花岡静枝会長の句は秀逸に選ばれました。「らいてうが降り立つ庭や吾亦紅」（上田市　花岡静枝）。

飯島ユキさん（会員）は、かつてらいてうが晩年を過ごした東京・成城の家の隣家に住み、らいてう夫妻に愛されて、はたち前後を過ごしたそうです。らいてうの実像を知るもっとも若い世代でしょう。らいてうは俳句がすきで、中村汀女主宰の「風花」に参加して多くの俳句を残していますが、最近の歳時記からは「らいてう忌」が削除されています。「例句がないから」といわれ、飯島さんは「らいてう忌」を復活させるために努力してきました。らいてうをテーマにした投句募集もその一つ。らいてうの俳句を収集した著書『今朝の丘』が六月ごろ上梓される予定です。

らいてうの句は「平明で品格があり、やさしい眼差しでものに接していらしたことがわかります。これこそ私の知るらいてうの真の姿です」と飯島さんは語っています。

「遠山のいく重なりや若葉谷」「露ふくむ夜干しの梅のやはらかに」（らいてう）。



「らいてうの家」の丸窓のある和室

シリーズ
らいてう再発見

「元始…」の原点は信州に

「家」のオープンから一年、残された資料や証言から、らいてうの新しいイメージが見えはじめています。しばらく「らいてう再発見」の旅に出ましょう。

「なぜ信州にらいてうの家を？」と聞かれるたびに「らいてうさんがここに土地を買ったから」とか、一九〇八（明治四十一）年「塩原事件」の後「スキャンダル攻勢を逃れて松本郊外に滞在したことがあるから」と答えてきた。このとき彼女がアルプスの山なみに感動し、『青鞜』に「信州人は幸福だ」というエッセイを書いたことも知られている。

最近、小林登美枝前会長が自伝編集のため、らいてうから直接話を聞いた取材ノートがみつかった。らいてうの松本行きのいきさつは自伝にも書かれているが、らいてうの肉声を伝えるものとして興味深い。らいてうはこのとき信州で考えたこととして「自分が前よりおとろえた」と思い、これではいけない、もう一度元気な自分にかえらねばならない、立ち直らねば、という気持ちだったというのである。世間がなんと思ってもそれは自由だが、自分の精神が低いところに落ちたというのはさびしい、と。

この部分は、あの「元始女性は太陽であった」には率直に「私は泣いた、苦々しくも泣いた。日夜に奏でて来た私の竪琴の糸が弛んだことを、調子の低くなったことを」と表現されている。そして、傷ついた彼女が立ち直るきっかけは、高原に咲く母子草や河原なでしこといった野の花や、アルプスに「くるくると廻転」しながら沈む夕陽と向き合ったことであった。

「元始…」に描かれる太陽は、らいてうが信州でみた日没の風景そのものである。そこから「総身に力が漲ってくる」自分を取り戻して行ったのであった。

らいてうの信州体験は「元始女性は太陽であった」の原点をかたちづくり、その精神形成にとって大きな意味を持ったということができる。

（米田佐代子）

ちょっと　いいニュース

◉「会員サービス」のペンション

菅平に「らいてうの会会員歓迎」のペンションがあります。「会員サービス」のほか、施設・時期によっては「家」への送迎もできるそうです。くわしくは「らいてうの家通信」四号参照。

◉「アトリエ獏」が最優秀に

三月に長野市で開かれた第十九回長野県青年・女性建築士のつどいで、らいてうの家の設計監理にあたった「らいてうの家　アトリエ獏プロジェクト」が、「女性九人衆のしたこと―協同で建てたらいてうの家」を発表しました。全県の発表の中から「最優秀」に選ばれました。六月に神奈川大学で行なわれる関東甲信越ブロック大会に長野県代表として出場します。

◉米田会長が「上田観光大使」に

上田市はこのほど米田会長を「観光大使」に任命しました。「家」を「人と人との出会い」を大切にする観光スポットにしたいものです。

第八回通常総会のご案内

左記の日程で総会を開催いたします。
正会員の皆様はご出席をお願いします。
日時　四月十四日（土）一時三十分より
会場　全国教育文化会館（エデュカス東京）

〔事務局日誌〕

1月19日　記録映画を上映する会理事会に出席
1月21日　上田地域活動交流会に米田会長出席
1月22～23日　真田にてらいてう研究資料整理
1月25日　事務局会議
1月31日　米田会長が上田市商工観光部観光課より観光大使に任命される
2月7日　第8回理事会
2月12日　第5回森のめぐみ講座開催　於真田林業会館
2月13日　雪の森林探索―四阿高原
2月27～3月1日　真田にて資料整理
3月10～12日　真田にて資料整理・展示パネル準備
3月19日　第9回理事会
3月22日　記録映画を上映する会理事会に出席
3月25日　田畑文士村記念館講演会「平塚らいてうの軌跡」（講師岩淵宏子氏）に参加